

【令和３年度 国語科授業改善推進プラン】

(1) 国語科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

- ・日常生活や公の場で、状況や相手を思いながら正しい言語や文字を適切に操ることができる。
- ・授業で学んだ基礎的な知識を生かし、言葉や文字で的確に表現し伝え、発表することができる。
- ・分野や文章の種類によって異なるねらいを理解し、豊かな言語表現を用いて書くことができる。

(2) 学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	・課題の提出率に課題がある。授業態度はおおむねできているものの、1時間の授業を集中して取り組めているかどうかで、理解度や達成度に大きな差が生じる懸念がある。 ・ノート作りは、様々な考えや意見のための補助になるようにできている。どのようなやりとりを行い、何を考えたのかということを、各自で工夫している様子が見られる。 ・読書スピーチは嫌がらずにほとんどの生徒が発表できる。 ・発言や挙手に関しては結構積極的である。	・長欠生徒が10人となって多人数になったが、授業態度は成長している。 ・書写について、毛筆は非常にしっかりした字を書く生徒が多いが、硬筆は男子の未熟さが目立つ。行書の特徴を踏まえて、行書に調和する仮名の特徴を学ぶことができている。 ・テスト内の作文やノート作りには、差が生じている。 ・言語理解や表現には幼さが残り、語彙の豊かさはまだ感じられない。 ・自分の思考や体験内だけで、考えているので学習が広がらない生徒も多い。	・休業中の課題の提出率がよく完成度が高かった。授業態度もとてもいい状態を保ち、集中して取り組んでいる。 ・ノート作りは、様々な考えや意見のための補助になるようにできている。どのようなやりとりを行い、何を考えたのかということを、丁寧に記録に残すことができている。 ・聞き手を意識した発表、集中して聴写することができる。また、継続して新しい言葉に触れる機会をつくることができている。 ・書くことに対する工夫は、大きく成長している。
学力調査結果	< 3 年の全国学力調査について > 全国の正答率を上回る東京都の正答率を基準に見ると、「学習指導要領の領域別」「評価の観点別」「問題形式別」のすべてにおいて5～6ポイント高く、特に10ポイント近く高かったのが、「書くこと」と「話す・聞く能力」であり、もともと得意分野だった力と、課題であった分野の力が大きく伸びたと考えられる。		
指導上の課題	・指示や、発問を理解することや取りかかりの遅い生徒への声かけを、短く的確に行う。 ・授業のねらいや流れ、振り返り等の掲示を、分かりやすく簡潔にする。 ・週一度の学習教室などの実施が必要である。	・指示や、発問を理解することや取りかかりの遅い生徒への声かけを、側で的確に行う。 ・2学年半ばの時機を逃さず、気持ちを聞き取り、認めることから再び始める。 ・自分の良さに自分で気付かせるような展開や取組をする。 ・振り返りと復習、予習のルールを守ることと、可視化等による指導法を工夫する。 ・週一度の学習教室を2年生らしい形と内容にする。	・ノート作りは、学んだことを整理し直すことができているので、振り返って活用を図れるようにすることが課題である。 ・発表に関して、発表内容を理解しやすいように、意味のひとまとまりを意識しながら読む等の工夫をする。

(3) 改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	〈授業〉 ・チャイム直前に、漢字の書き取りに取り組み、継続的に行う。 ・「天声人語」プリント課題を定期的に取り組み、語彙を豊かにし、考えながら読む習慣を付けて読む力を伸ばす。 ・毎時の「振り返りの時間」を時間を取って一斉に取り組み、学習理解の定着を図る。 〈家庭学習〉 ・漢字練習、ワーク、音読、ノート	〈授業〉 ・チャイム直前に小テストや音読テストなど「具体的なこと」に取り組む。 ・毎時はじめや終わりに設定している「振り返りの時間」をもっと意識し、学習意欲を高め言葉の使い方を改善する。 ・授業アンケートで表れる、説明やプリントのわかりにくさについて、改めて考える。 〈家庭学習〉 ・漢字練習、ワーク、音読 ・習慣化 ・予習	〈授業〉 ・受験を意識し、頻出語句などをこまめに学習する。 ・自分の考えを進んで伝えるために、教材と生活を関連させ、動機付けを行う。 ・考えながら読む習慣をつけて読む力を伸ばす。 ・漢字と音読を毎日行い、また、ノートを活用し、その日の授業の復習をする。 〈家庭学習〉 ・漢字練習、ワーク ・音読 ・ノート
指導面	・各単元の目標を、授業のはじめに明確に示す。 ・発表の場を平等に設け、一人一人学びを深めていく。 ・机間指導を頻繁にして生徒の状況をつかむ。 ・毎時と単元ごとの振り返りを徹底し、生徒にとって価値あるものにする。	・授業計画と内容を改める。 ・取りかかりの遅い生徒も理解できるように、板書や近くでの声かけで確認させる。 ・実行に移すまで、机間指導をして生徒の状況を掴み、把握でき次第、テンポよく進める。 ・日本語の良さを実感させ、言語での説明を応援しながら、学年全体の言動の強さや端的な表現を改善する。	・各単元の目標を、授業のはじめに明確に示す。 ・短く具体的な指示を出すことで、学習内容を明確に伝える。 ・学習課題の明確な設定と発問を工夫する。 ・自学自習力のために、毎時間や週ごとに宿題を点検する。 ・毎時と単元ごとの振り返りを徹底し、生徒にとって価値あるものにする。

(4) 評価

①授業に取り組む様子 ②漢字ノート、ワーク、ノート（２段目、３段目） ③朗読や音読 ④家庭学習の様子 ⑤定期テスト観点別学習状況による評価 ⑥国及び都の学力調査結果（２年度はない） ⑦知識事項に関する小テスト（基礎・応用として東京ベーシック・ドリルも使ってみる） ⑧古典分野における暗唱テスト ⑨授業アンケート結果による達成度評価
--